

## 安全データシート

改訂日:2022年1月20日

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称(製品名)

会社名

住所

電話番号

ジエチレングリコールモノ-n-ブチルエーテルアセテート

米山薬品工業株式会社

大阪府中央区道修町2丁目3番11号

(06)6231-3555(大阪・本社)

(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)

(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)

CB0305

整理番号

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性:区分2B

ラベル要素

絵表示又はシンボル

なし

危険喚起語

警告

危険有害性情報

眼刺激

注意書き

【安全対策】

取扱後は眼を洗うこと。

【応急措置】

眼に入った場合、数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受けること。

【保管】

換気の良い冷所で保管すること。

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

## 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名

別名

化学物質

ジエチレングリコールモノ-n-ブチルエーテルアセテート

n-ブチルカルビトールアセテート

酢酸n-ブチルカルビトール

化学式

C<sub>10</sub>H<sub>20</sub>O<sub>4</sub>

化学物質を特定できる一般的な番号

CAS RN:124-17-4

成分及び含有量

98%以上

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

(2)-744

## 4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい体制で休息すること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を速やかに洗浄すること。

多量の水と石鹼で洗うこと。

気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

汚染された衣類を再利用する前に洗濯すること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断/手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状

皮膚:発赤、皮膚の乾燥

眼:発赤

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火剤、水溶性液体用泡消火剤、水噴霧、炭酸ガス、乾燥砂類、対アルコール性泡消火剤

使ってはならない消火剤

棒状放水

特有の危険有害性

熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。

激しく加熱すると燃焼する。

火炎時に刺激性、腐食性及び毒性ガスを発生するおそれがある。  
強力な酸化剤と反応する。  
爆発性過酸化物を生成することがある。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
安全に対処できるならば着火源を除去すること。  
適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。  
消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。

特有の消火方法	
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業の際には適切な保護具を着用し風上から作業して、風下の人を退避させる。 保護手袋、保護眼鏡、保護衣を着用する。
環境に対する注意事項	河川等へ排出され環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
二次災害の防止策	危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに粉塵を発生させない。 火気・静電気に注意すること。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の粗暴な扱いをしない。
局所排気・全体換気	取扱場所には局所排気装置を設置する。使用後は容器を密封する。
安全取扱い注意事項	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 眼に入れないこと。 皮膚との接触を避けること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 強酸化性物質、有機過酸化物、強塩基
接触回避	
保管	
技術対策	施錠して保管すること。
安全な保管条件	容器は換気の良い冷所に保管し密封する。火気、熱源から避ける。
容器包装材料	ガラス、スチール
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度(出典)	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	取扱いについては、できるだけ密閉化を行うか、局所排気装置を使用する。作業場近くに手洗等の設備を設ける。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	液体
色	無色
臭い	微臭
融点/凝固点	-32.2°C(融点)
沸点又は初留点及び沸点範囲	246.7°C(沸点)
燃焼性	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	0.8~10.7vol%
引火点	126°C(開放式)
自然発火温度	290°C
分解温度	該当情報なし。
pH	3~4 (20°C, 50g/L)

動粘性率(粘度)		該当情報なし。
溶解度		6.5g/100mL(20°C,水)
n-オクタノール/水分係数		logPow=1.8
蒸気圧		5.3Pa(20°C)
密度及び/又は相対密度		0.981
相対ガス密度		7.0(空気=1)
蒸発速度		該当情報なし。
10. 安定性及び反応性		
反応性、化学的安定性		通常の取り扱いに於て安定。
危険有害反応可能性		強力な酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険性がある。 ある種のプラスチックを侵す。
避けるべき条件		裸火、日光、熱
混触危険物質		強酸化性物質、有機過酸化物、強塩基
危険有害な分解生成物		一酸化炭素
11. 有害性情報		
急性毒性	経口:	ラットLD <sub>50</sub> 11920mg/kg、6500mg/kg、ラビットLD <sub>50</sub> 5500mg/kg
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		[皮膚刺激性試験]ラビット:軽度の刺激
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		[眼刺激性]ラビット:軽度の眼刺激
呼吸器感作性又は皮膚感作性		該当情報なし。(分類できない)
生殖細胞変異原性		該当情報なし。(分類できない)
発がん性		該当情報なし。(分類できない)
生殖毒性		該当情報なし。(分類できない)
特定標的臓器毒性(単回暴露)		該当情報なし。(分類できない)
特定標的臓器毒性(反復暴露)		該当情報なし。(分類できない)
誤えん有害性		該当情報なし。(分類できない)
12. 環境影響情報		
生態毒性	短期: (急性)	該当情報なし。
	長期: (慢性)	該当情報なし。
残留性・分解性		分解性は良好。
生体蓄積性		生物蓄積性は低いと推定される。
土壤中の移動性		該当情報なし。
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意		
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報		産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意		
国連番号		—
品名(国連輸送名)		—
国連分類		—
容器等級		—
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策		運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷ぐずれの防止を確実に進行。
国内規制がある場合の規制情報		
陸上輸送		消防法の規定に従う。
海上輸送		船舶安全法の規定に従う。
航空輸送		航空法の規定に従う。
応急措置指針番号		—
15. 適用法令		
化学物質管理促進法(PRTR法)		指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法		毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法		名称等を表示し、又は通知すべき有害物 [施行令別表9]に該当しない。
消防法		危険物第4類第3石油類非水溶性液体
海洋汚染防止法		有害液体物質(Y類)(施行令別表第1)

16. その他の情報

参考文献

16616の化学商品(化学工業日報社)  
国際化学物質安全性カード(ICSC)  
GHS対応ガイドライン(日本化学工業協会)

その他

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。